

恩納村 名嘉真区

集落
部門

新鮮野菜で憩いの場、地域の絆でふるさとづくり (平成25年度認定)



名嘉真区は、小高い山を背景に花卉を中心とした園芸農業が営まれる農村集落で、「アブシバレー」や豊年祭、「ウシデーク」、「タキヌユーエー」といった伝統文化が受け継がれた歴史ある地域である。近年は新鮮野菜の生産を通じて地域間のコミュニケーションも図られるなど、高齢者が中心となり野菜生産に力を入れている。

毎年旧暦の正月には「名嘉真区産業まつり」を開催しており、区民が生産した野菜と花卉の即売会や品評会、山芋スープを行い、農家の生産意欲の向上と、区民の親睦の場となっており、平成25年で10回目を迎える。また、集落中央の集出荷場では、「なかゆくい市場」へ出荷するため生産者が集い、品目や品質の向上を図る交流の場となっている。その多くが高齢者で、生き甲斐や健康づくりにもつながっている。最近では、地産地消を手がけるリゾートホテルの関係者も訪れ、地元企業との新たなつながりも広がっている。

その他、名嘉真川のアメニティを活用し、鯉のぼり祭りやクリスマスイルミネーション等も開催され、地域内外との交流にも力を入れるなど、区民の創意を生かしたイベントで、特色ある地域活動が展開されていることから、良好なアメニティを提供し地域活動（特色）が活発であると認められる団体として集落部門に認定された。



名嘉真区産業まつり



山芋スープ(産業まつり)



農作物品評会(産業まつり)



豊年祭



名嘉真川鯉のぼり



イルミネーション